

【行徳可動堰の現状について】

1. 施設の概要

行徳可動堰は、江戸川放水路河口から3.2 km上流に位置し、洪水処理、塩分遡上防止を目的として、鋼製ローリングゲート（純径間30m×門高5m×3門）により昭和32年3月に設置された。



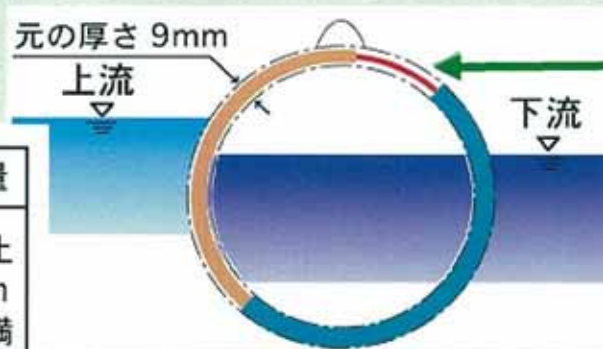
2. 事業の必要性（課題・改築の必要性）

- ・可動堰は設置から52年が経過しており、全体的に経年劣化が著しい。
- ・ゲート設備は、機能維持を目的とした維持管理を行っているが腐食の進行が著しい。
- ・平成19年台風9号では、ボルトの腐食により堰中央2号ゲートの開操作が不能となった。
- ・堰柱の表面が劣化し鉄筋が露出した箇所や、海水面の変動に伴う塩害が進行している状態。

ゲート

◆腐食状況

腐食による減量	
	4mm 以上
	2~4mm
	2mm 未満



ゲート断面

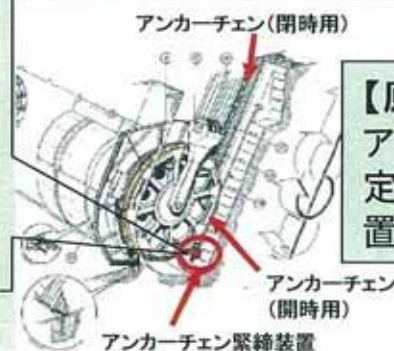


堰柱

◆経年劣化状況 (P2右岸側)



◆平成19年台風9号時の堰中央2号ゲートの開操作が不能となった状況。



【原因】

アンカーチェーン緊締装置固定ボルトの腐食による緊締装置の離脱

きんし

3. 事業の経緯 (全面改築 → 部分改築)

行徳可動堰は昭和25年12月に着工し、昭和32年3月に竣工。竣工から52年経過している。平成5年に流下能力不足、堰の老朽化により、全面改築として**特定構造物改築事業**が採択された。

